

1. 科目名 ( 単位数 )	教育方法論 ( ICT 活用含む ) ( 2 単位 )	3. 科目番号	EDTE2104
2. 授業担当教員	曾根原 和明		
4. 授業形態	道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	本科目は、初等分野・中等分野における「教育の基礎的理解に関する科目」に位置付けられる。教職課程においては必修科目であり、教員として必要な基礎的資質・能力を形成する中核的科目である。ただし、教育職員免許状を取得しない場合は選択科目となる。「特別活動の指導法」「特別ニーズ教育論」「総合的な学習の時間の指導法」「道徳の指導法」などの他教科等の指導法科目とも接続しており、本科目で学ぶ教育方法や評価の考え方は、各教科の授業・指導設計に応用される。		
7. 講義概要	教育方法に関する基本的な事項 ( 歴史・学力・学習・評価 ) および、通信技術を利用して「つながる」 Society 5.0 の社会に生きる児童の「個別最適な学びと協働的な学び」・「主体的・対話的で深い学び」を実現するための授業改善に向けて、教員としての資質・能力の向上を図り、実践的な指導力を身に付ける教育の方法、教育の技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を学修し、令和の日本型学校教育の学びに資する。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>「個別最適な学びと協働的な学び」・「主体的・対話的で深い学び」のもととなる「学び」について、探究し、その学びを実現するための方法・技術を活用できる。</li> <li>教育現場で実践されている ICT の活用事例を学び、情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進に生かすことができるように、学び合う。</li> <li>情報通信技術の活用の意義と理論を理解するとともに、児童に情報活用能力 ( 情報モラルを含む ) を育成するための基礎的な指導方法を身に付ける。</li> <li>教員採用試験において求められるレベルの教育方法に関する基礎的な知識を習得する</li> </ol>		
9. アサシメント ( 宿題 ) 及びレポート課題	<p>本科目では、教育方法に関する理論的理解と授業設計力の基礎を養うことを目的として、事前課題・事後課題・中間課題および期末レポートを課す。</p> <p>( 1 ) 事前課題 各回の授業内容に関連する自身の学習体験や問題意識を振り返り、簡潔にまとめて提出する。体験と理論を接続し、主体的に学ぶ姿勢を養うことを目的とする。</p> <p>( 2 ) 事後課題 当該回の学習内容について学習目標に照らした自己評価を行う。基本概念や要点の定着を確認することを目的とする。</p> <p>( 3 ) 中間課題 第 1 回から第 7 回までの学習内容を踏まえ、「主体的・対話的で深い学び」または「個別最適な学び」を実現する簡易指導案を作成する。単元目標、本時のねらい、学習活動、評価方法等を含め、理論と方法の整合性を示すことを求める。</p> <p>( 4 ) 期末レポート 本科目全体の学習を踏まえ、「主体的・対話的で深い学び」を実現するために教師が行う授業の工夫について論じる ( 1,500 字以内 ) 。</p> <p>事前課題および事後課題の提出は、いずれも次回授業日の前々日までとする。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 汐見稔幸監修・奈須正裕監修・編著・江間史明編著・黒上晴夫編著『教育の方法と技術』ミネルヴァ書房、2023 年。		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>●成績評価の規準 ( 学習目標 )</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>「何をどのように教え・学ばせるのか」「何が出来るようになるか」という観点から、学びを実現するための方法・技術を習得し活用できたか。</li> <li>情報通信技術の活用の意義と理論を理解し、児童に情報活用能力 ( 情報モラルを含む ) を育成するための基礎的な指導方法を身に付ける。</li> </ol> <p>●評定の方法 授業への積極的参加度、日常の受講態度、レポート等を総合して評価する。学びに向かう態度を重視する。 授業への積極的参加度・日常の受講態度・学びに向かう姿勢 ( 30% )、小レポート・中間課題 ( 40% )、期末レポート課題 ( 30% )</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>本科目では、教育方法や ICT 活用の理論を理解するだけでなく、それらをどのように授業づくりに生かすかを考え、自らの言葉で説明できる力を身に付けることを重視します。理論的理解と実践的構想力を往還させながら学ぶことが、本学の掲げる「理論的・科学的思考力と実践的能力の統合」につながります。</p> <p>第一に、対話を通して学ぶ姿勢を大切にしてください。授業では、意見交流や協働的な活動を通して、授業の在り方を多面的に検討します。他者の視点に触れることは、自らの考えを問い直し、深める契機となります。こうした主体的な参加は成績評価にも反映されます。</p> <p>第二に、方法を「理解する」だけでなく、「なぜその方法が有効なのか」を考える姿勢を持ってください。教育方法には常に目的があります。事前・事後学習や中間課題、期末レポートを通して、目標・方法・評価の関係を意識しながら、自分なりの考えを整理してください。</p> <p>第三に、ICT を単なる便利な道具としてではなく、学びを支える手段として捉えてください。情報活用能力や情報モラルの育成は、これからの教育に不可欠です。善き使い手を育てる視点を持ちながら、責任ある活用の在り方を考えてください。</p> <p>教育方法を学ぶことは、将来、子どもの学びを支える責任を自覚することでもあります。一つ一つの学びを自らの教師像と結び付けながら、主体的に取り組むことを期待します。</p>		
13. オフィスアワー	授業内 ( 初回授業 ) で周知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	第 I 部 教育の方法論 テキスト「第 1 章 資質・能力を基盤とした学力論と教育の方法・技術」	事前学習	体験の振り返り これまでに受けた授業の中で、「力がついた」と感じた体験の一つ挙げ、その理由を書いてきてください。
	資質・能力を基盤とした学力観への転換	事後学習	学習目標に照らした自己評価

	を理解する。「何を知っているか」から「どのような問題解決ができるか」へと学習者が牽化した背景を整理し、「主体的・対話的で深い学びの実現」		
第2回	有意義学習、オーセンティックな学習、明示的な指導などの学習理論を整理する。学習の状況性やメタ認知の育成を踏まえ、深い学びを支える理論的基盤を理解する。	事前学習	体験の振り返り 授業中に「よく分かった」と感じた学びの場面を思い出し、その理由を書いてきてください。
		事後学習	学習目標に照らした自己評価
第3回	テキスト「第3章 子どもの学びをよりよく支えるための教育評価」 診断的評価・形成的評価・総括的評価の役割を整理する。逆向き設計やオーセンティック評価の考え方を踏まえ、目標と評価の整合性を理解する。	事前学習	体験の振り返り テストや評価に対して納得できた体験、または疑問に感じた体験を書いてきてください。
		事後学習	学習目標に照らした自己評価
第4回	第II部 教育の技術 テキスト「第4章 公教育を担う教師の創造性」 体験単元・問題解決学習・系統学習の展開を概観する。知識教授と学習の主体化の関係を整理し、教師の創造性の意義を理解する。	事前学習	体験の振り返り 印象に残っている教師の授業の工夫の一つ挙げてください。
		事後学習	学習目標に照らした自己評価
第5回	テキスト「第5章 学習指導と単元の構成」 単元を見通した学びの設計方法を理解する。教科の「見方・考え方」を働かせる学習文脈の構想について学ぶ。	事前学習	体験の振り返り 授業の流れが分かりやすいと感じた体験を書いてきてください。
		事後学習	学習目標に照らした自己評価
第6回	テキスト「第6章 授業の構成と学習指導案」 学習指導案（単元案・本時案）の構成要素を整理する。目標・教材観・児童観・指導観・評価規準の関係を理解し、授業設計の基本を学ぶ。	事前学習	体験の振り返り 学習指導案にはどのような内容を書くかを書いてきてください。
		事後学習	学習目標に照らした自己評価
第7回	テキスト「第7章 個に応じた指導（個別最適な学び）と環境による教育」 個別最適な学びの理論的背景を理解する。物的・人的環境の整備と教育方法の多様化の必要性を考察する。	事前学習	体験の振り返り 授業で自分のペースで学べた体験を書いてきてください。
		事後学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習目標に照らした自己評価</li> <li>中間課題 第1回～第7回までの学習内容を踏まえ、「主体的・対話的で深い学び」または「個別最適な学び」を実現する授業構想案（簡易指導案）を作成しなさい（テキストpp.91-100参照）。以下の項目を必ず含めること。 <ul style="list-style-type: none"> <li>① 教科・学年・単元名</li> <li>② 単元目標（資質・能力の三つの柱を意識すること）</li> <li>③ 本時のねらい</li> <li>④ 学習活動の概要（どのように主体性・対話性・深さを生み出すかを明記すること）</li> <li>⑤ 評価の方法（診断的・形成的・総括的のいずれかを含めること）</li> </ul> </li> </ul>
第8回	テキスト「第8章 算数・数学科の実践—教えて考えさせる授業」 「教えて考えさせる授業」の構造を分析する。習得と探究を往還させる授業設計の特徴を理解する。	事前学習	体験の振り返り 算数や数学の授業で「分かった」と感じた瞬間を書いてきてください。
		事後学習	学習目標に照らした自己評価
第9回	テキスト「第9章 国語科の実践—授業のユニバーサルデザイン」 授業のユニバーサルデザイン（UD）の考え方を整理する。焦点化・視覚化・共有化などの具体的手立てを学ぶ。	事前学習	体験の振り返り 授業で「分かりやすい」と感じた工夫を書いてきてください。
		事後学習	学習目標に照らした自己評価
第10回	テキスト「第10章 社会科の実践—探究を拓く授業」 社会的事象を通して探究を深める授業の構成を理解する。教材の本質に迫る問いの設定について学ぶ。	事前学習	体験の振り返り 社会科の授業で考えさせられたテーマを書いてきてください。
		事後学習	学習目標に照らした自己評価
第11回	テキスト「第11章 理科の実践—子どもが主体的に取り組む学習」 子ども主体の学習の構造を理解する。独自学習・相互学習・フィールドワークの意義を整理する。	事前学習	体験の振り返り 理科や実験の授業で主体的に学習に取り組めた体験を書いてきてください。
		事後学習	学習目標に照らした自己評価
第12回	第III部 情報機器および教材の活用	事前学習	体験の振り返り

	テキスト「第12章 教育の情報化と思考スキル」  教育の情報化の全体像を理解する。思考スキルとシンキングツールの活用を通して、情報活用能力育成の基礎を学ぶ。		ICTを活用して学習が深まったと感じた体験を書いてください。
		事後学習	学習目標に照らした自己評価
第13回	テキスト「第13章 情報機器を活用した教材の作成」  ICTを活用した教材作成の基本原則を理解する。学習目標との整合性や提示方法の工夫を検討する。	事前学習	体験の振り返り インターネットやICTを使って調べ学習をした体験を振り返り、うまくいった点や難しかった点を書いてください。
		事後学習	学習目標に照らした自己評価
第14回	テキスト「第14章 情報活用能力を育成するための指導法」  教科横断的な情報活用能力育成の方法を整理する。プログラミング的思考の位置付けと小学校段階での実践の在り方を学ぶ。	事前学習	体験の振り返り 情報活用能力が必要だと感じた場面を書いてください。
		事後学習	学習目標に照らした自己評価
第15回	テキスト「第15章 善き使い手を育成するための指導法」  情報モラル教育とデジタル・シテイズンシップの理念を理解する。ICTの制限ではなく、善き市民の育成という観点から情報教育を再構成する。	事前学習	体験の振り返り ICT利用において「難しい」と感じた体験を書いてください。
		事後学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 学習目標に照らした自己評価</li> <li>● 期末レポート 本科目で学んだ内容を踏まえ、「主体的・対話的で深い学び」を実現するために、教師はどのような授業の工夫ができるかを論じなさい。論述にあたっては、次の3点を必ず含めること(1,500字以内)。 ① 子どもの「学び」とはどのような営みか ② 学びを深めるための具体的な授業の工夫(問いの設定、活動の工夫、評価の工夫など) ③ ICTや評価が果たす役割 小学校を想定し、教科・学年は自由とする。具体的な授業場面を一つ示しながら論じること。</li> </ul>